

生命の記憶

Memory of Life

渡辺直彦

Naohiko Watanabe

最近いろいろなメディアで、環境問題が多く取り上げられるようになり、私も少なからず関心を持つようになった。しかし、いろいろなことが言われている中で、何が正しいのか、どうすればよいのかがよくわからない。だから私はここで、環境問題について何か発言しようとしているのではない。ただ自然を破壊し続ける人間に対し、「人工」の対義語である「自然」に、よりいっそうの興味と敬意を抱くようになった。

ここでいう記憶とは、いわゆる我々が生きて経験してきたことを覚えているという、個人の記憶のことではなく、生命体の遺伝子に刻まれ、世代を越えて伝わっていく、自然環境に適応し生きていくための情報のことだ。私はその「生命の記憶」とでも呼ぶものに、ただただ自然の神秘と偉大さを感じずにはいられない。

ここで紹介するのは、花（椿）をモチーフに、DNAに刻まれた情報が宿る象徴的な部分として、雌しべ、雄しべのクローズアップを描いた作品と、原生林を取材した中から、循環を繰り返す生態系の象徴としての森と、その樹木を描いたものである。

岩絵具を使った日本画や木版画で表現しているのは、実際触れることのできない自然そのもの（生態系のシステム）に、少しでも手で触れるような感触を得たいとの想いから、素材（絵具）の物質感にこだわったためだ。



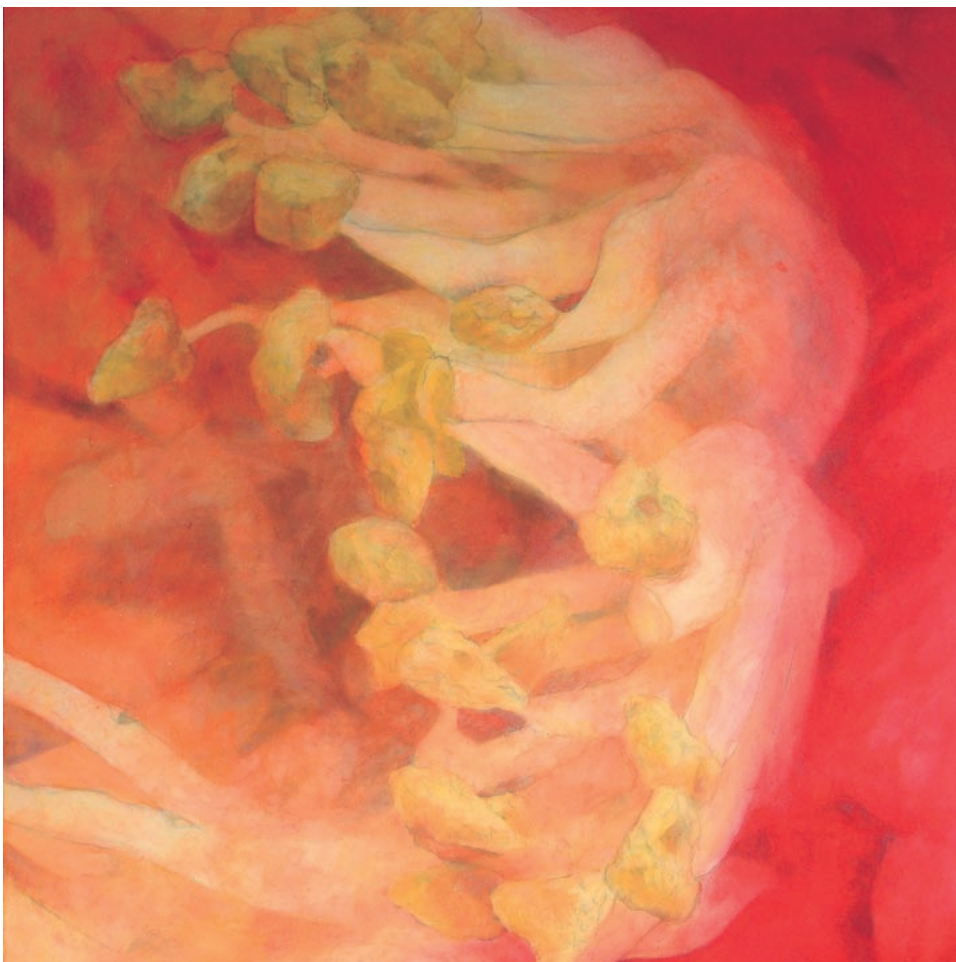
生命の記憶Ⅰ 2008年
麻紙、岩絵具 116.7×116.7cm



生命の記憶Ⅱ 2008年
麻紙、岩絵具 116.7×116.7cm



生命の記憶Ⅲ
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



生命の記憶Ⅳ
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



生命の記憶V
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



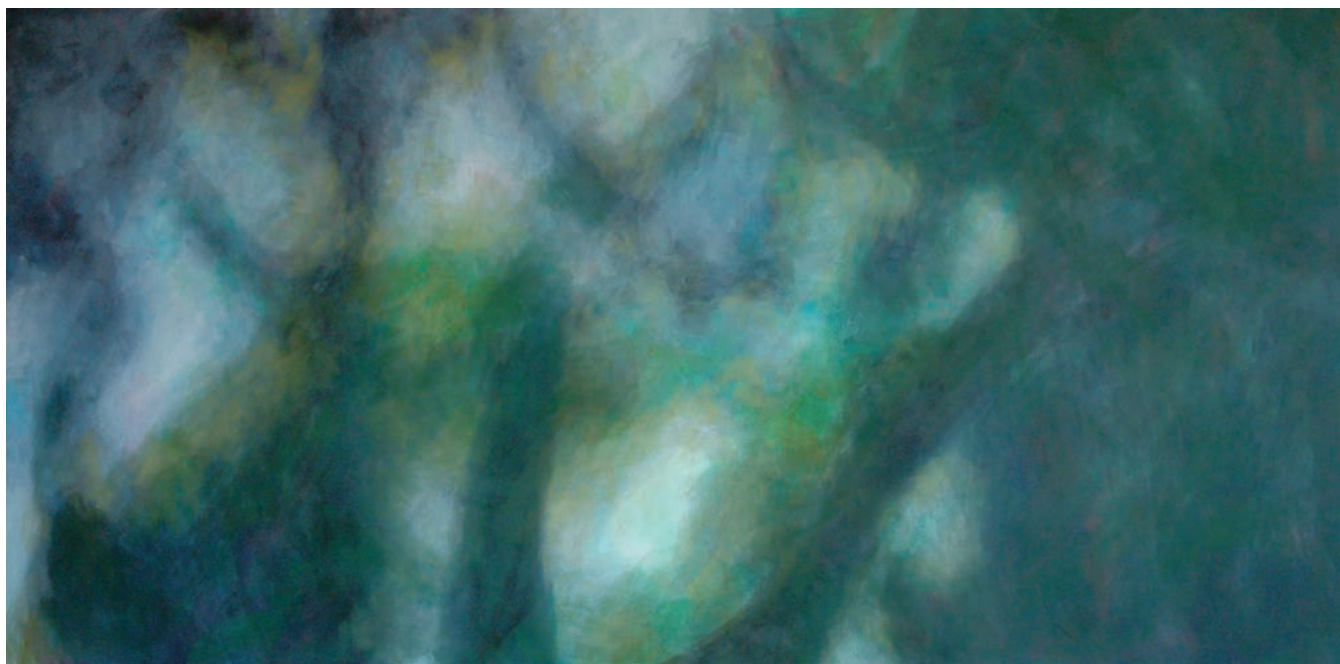
生命の記憶VI
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



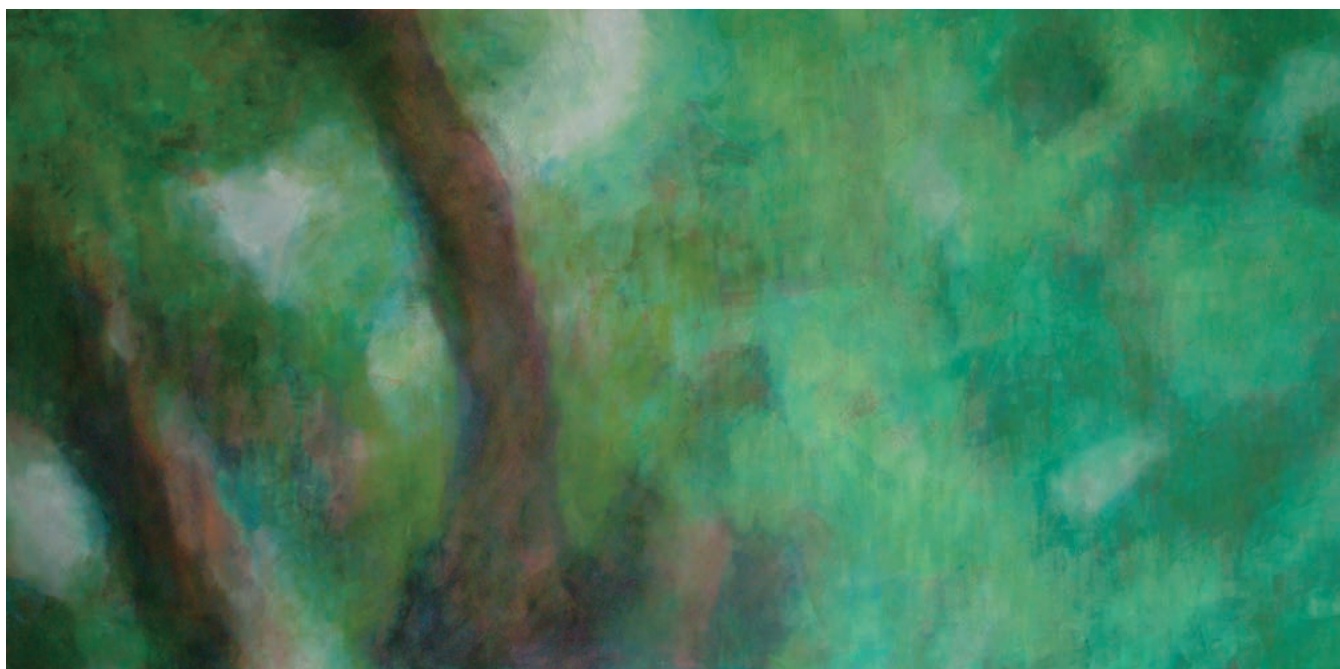
生命の記憶Ⅶ
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



生命の記憶Ⅷ
2008年
麻紙、岩絵具
116.7×116.7cm



森の記憶 I 2008年
麻紙、岩絵具 90×180cm



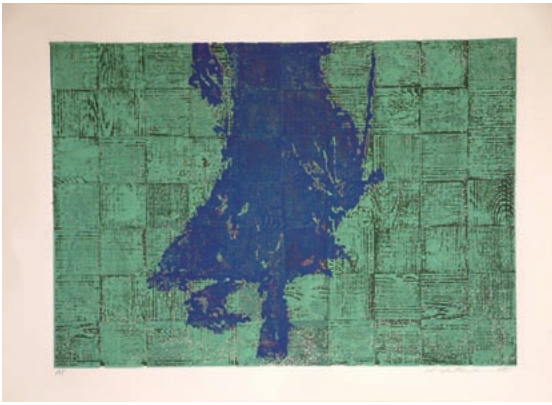
森の記憶 II 2008年
麻紙、岩絵具 90×180cm



森の記憶Ⅲ 2008年
麻紙、岩絵具 90×180cm



森の記憶Ⅳ 2008年
麻紙、岩絵具 90×180cm



声になりたい 2005年
木版画 62×89cm



安らぎを求めて 2005年
木版画 62×89cm



心の拠り所 2005年
木版画 62×89cm



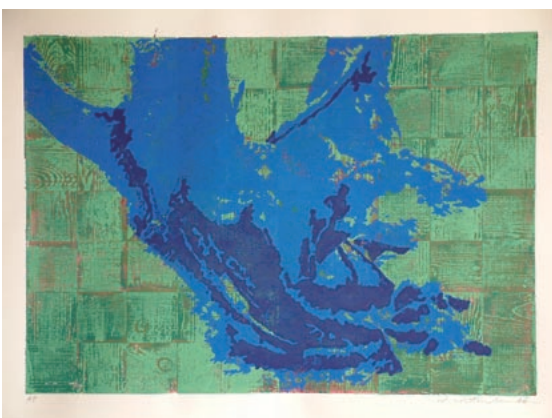
強さと弱さ 2005年
木版画 62×89cm



沈黙 2006年
木版画 62×89cm



再びここに来た 2006年
木版画 62×89cm



森の歴史 2006年
木版画 62×89cm



時を越えて 2006年
木版画 62×89cm